

令和5年5月26日

都道府県体操協会(連盟)会長 殿  
ブロック体操協会事務局 殿  
各ブロック代表者 殿

公益財団法人日本体操協会  
専務理事 山本 宜史  
審判委員長 近藤 昌夫  
地域委員長 田野辺 満  
国体担当 佐久間 裕司

#### 特別国民体育大会〔体操〕各競技種別の適用ルールについて（通達）

平素より本会の諸事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、標記の件、国民体育大会〔体操〕実施要項には、適用ルールの具体的な記載はせず、当該年度の初めに別途、本会より適用ルールを都道府県協会・連盟に通達することとなっております。

ここに「特別国民体育大会体操競技会、各競技種別適用ルール」を通達いたしますので、関係各所への伝達、周知を宜しくお願いいたします。

なお、各競技は新体操が9月16日(土)～17日(日)、トランポリンが9月18日(月)、体操競技が9月21日(木)～24日(日)に鹿児島市西原商会アリーナにて開催されます。

新型コロナウイルスは第5類に指定され、さまざまな場面で平穏を取り戻そうという動きが出てきております。平常に近づいた時に特別国体となりましたので、今回の大会で皆様にお会いできることを心待ちにしております。

#### 記

【特別国民体育大会／体操競技会の適用ルール】（実施要項 4項抜粋）

### 4 競技上の規程及び方法

(1) 公益財団法人日本体操協会制定の競技規則による。

#### (2) 体操競技の競技方法

成年男女及び少年男女ともに1チームの選手は5名とする。(5-5-4方式)

##### ア 成年(団体総合競技)

男子は、ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目の自由演技を行う。

成績順位は、6種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

女子は、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目の自由演技を行う。

成績順位は、4種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

なお、成年男女の詳細な適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。



- 成年男子は、「2022年版採点規則及び男子体操競技情報・最新号」を適用する。
- 成年女子は、「2022年版採点規則・変更規則Ⅰ及び女子体操競技情報 最新号」を適用する。

#### イ 少年（団体総合競技）

男子は、ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目の自由演技による予選と決勝を行う。予選での6種目の各種目ベスト4の得点総合計により、上位18チームを選び、そのチームによって決勝を行う。成績順位は、決勝における6種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

女子は、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの4種目の自由演技による予選と決勝を行う。予選での4種目の各種目ベスト4の得点総合計により上位18チームを選び、そのチームによって決勝を行う。成績順位は、決勝における4種目の各種目ベスト4の得点総合計によって決定する。

なお、少年男女の詳細な適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。



- 少年男子は、「2022年版高等学校男子適用規則」を適用する。
- 少年女子は、「2022年版採点規則・変更規則I及び女子体操競技情報 最新号」を適用する。

(注) 予選において同点が生じた場合、競技規則に準じて決勝通過順位を決定する。

### (3) 新体操の競技方法

適用ルールについては、別途、公益財団法人日本体操協会から都道府県協会に通達する。



- 少年女子は、「2022-2024 公財日本体操協会採点規則シニアルールと令和5年2月高体連適用ルール」を採用する。

#### ア 競技内容 団体競技（フープ5）

\*当該年の全国高校総体で採用された種目と同一とする。

個人競技（フープ・ボール・クラブ・リボン）

成績順位は、以下の合計得点によって決める。

団体競技の得点及び個人競技の得点（4種目4演技×1/4）の合計

#### イ 団体競技について

都道府県ごとに団体を編成し、演技者は5名とする。

#### ウ 個人競技について

個人競技の演技者として、団体の5名のうちから4名だけが出場できる。

### (3) トランポリンの競技方法 ※実施要項の記載文に同じ

#### ア 競技内容

男女とも成年・少年はそれぞれ共通とし、個人競技で行う。

予選は、第1自由演技と第2自由演技を行い、2つの合計得点により予選順位を決定する。決勝には予選順位の12位までの選手が進出できる。

決勝は自由演技を1回を行い、成績順位は決勝の自由演技得点によって決定する。

イ 第1自由演技について

演技得点（Eスコア）＋跳躍時間点（Tスコア）＋移動減点（Hスコア）の3つの合計が第1自由演技得点となる。

【特別要求】

演技は10種目の異なった種目で構成し、「前方の270度以上の宙返り」と「後方の270度以上の宙返り」をそれぞれ1回以上行わなければならない。これらの要求種目が欠如した場合は、合計点から2.0の減点がなされる。

(注)「よつんばい落ち」と「膝落ち」は実施種目には認められず、これを実施した時点で演技は中断となる。

ウ 第2自由演技及び決勝自由演技について

10種目を自由に構成し、演技得点（Eスコア）＋難度点（Dスコア）＋跳躍時間点（Tスコア）＋移動減点（Hスコア）の4つの合計が第2自由演技得点となる。

また、決勝自由演技も同様、10種目を自由に構成し、4つの項目の合計が決勝の得点となる。

エ 器具

国際体操連盟公認トランポリン器具2台からの選択制とする。器具周辺には、主催者側で2名のスポッターを配置する。選手の安全を守るという観点から、ダブルスポッター制を義務化とする。チームの監督を含めた2名を各県で準備して対応する。スポッターについて、監督以外の1名が不足する場合は、主催者に依頼の申請を行う。

以 上